

# 国際標準化の取組について

～「知的財産推進計画2010」の進捗状況等～

2010年12月21日

経済産業省

# 「知的財産推進計画2010」の進捗状況について

具体的な取組・・・本日ご説明する部分のみ記載

※ 以下「短期」は1～2年、「中期」は3～4年で実施する事項。

3	アジア地域を中心とした共同研究開発プログラムの構築（短期・中期）	アジア地域における新規事業創出や国際標準の提案・獲得を行う仲間作りのため、標準化や事業化を見据えた米国・EUのみならずアジア諸国とのパートナーシップに基づく共同研究開発プログラムを2010年度中に計画し、速やかに構築する。	経済産業省 総務省 国土交通省
4	アジア地域の標準化組織的な取組（中期）	アジア地域における標準化とその的確な認証に向けて組織的に取組む。	経済産業省 総務省 国土交通省
5	フォーラム標準を含む総合的な支援（短期）	これまでのデジュール標準に限定した支援のみならず、我が国産業の競争力強化に資するフォーラム標準も含めた国際標準化活動を総合的に支援する。	経済産業省 総務省 国土交通省
6	国際標準化活動の専門家の育成（中期）	技術知識だけでなく、知財知識、事業知識や現場での交渉スキルを身につけた国際標準化活動の専門家を育成する。	経済産業省 総務省 国土交通省
8	産業界の意識改革の促進（短期）	経営に資する標準化活動に係る産業界の理解や意識改革を促す。	経済産業省 総務省 国土交通省
9	知的財産マネジメントの実践（中期）	特定戦略分野を中心に、国際競争力を持ち得る事業の経営層を対象に、国際標準戦略を含む知的財産マネジメントへの意識改革と取組みを全社的に強化するための啓発を行う。また、有力な事業を対象に個別案件ベースでの相談・支援を積極的に展開する。	経済産業省
10	公正な評価方法の研究・国際標準化の支援（短期）	公正な評価方法や適切な規格・基準を見極めるための研究及びその国際標準化、並びにその国際標準の的確な認証を支援する。	経済産業省 総務省 国土交通省

## ■ アジア地域を中心とした共同研究開発プログラムの構築 (No.3)

- ✓ 「アジア太平洋産業技術・国際標準化プログラム」の策定・実施
  - 本年4月に、「アジア太平洋産業技術・国際標準化協力プログラム」を推進していくことを公表。
  - 新成長戦略（本年6月）においても、環境分野や製品安全問題等に係る日本の技術・規格について、アジア諸国と共同で国際標準化を行う事により、アジア諸国の成長と「安全・安心」の普及及び日本企業の事業環境整備を図る事が示されているところ。
  - 本年6月に、同プログラムについてアジア諸国との対話を実施し、具体的な協力の内容について議論。
  - また、同プログラムを実行に移すべく「アジア基準認証推進事業」を平成22年度補正予算において充当済み。
  - 平成23年度予算についても要求中。

- アジア地域の標準化の組織的な取り組みを実施 (No.4)
  - ✓ 二国間・多国間の国際的な枠組みを活用
    - 本年5月に日中韓サミットの共同声明を発出。
    - これを受け、3カ国の局長級の常任委員会を本年12月に設置し、日中韓フォーラム等を推進。
  
- フォーラム標準を含む総合的な支援 (No.5)
  - ✓ 国際標準提案と国際交渉等への支援
    - 研究開発と国際標準化の一体的推進、国際会議出席旅費等、国際標準策定に係る支援を実施
    - あわせて、海外の国際標準化専門家を活用した国際交渉等に係る支援を行うなど総合的な支援を実施
    - 日本工業標準調査会 (JISC) 総会 (第20回) において、フォーラム標準への関与のあり方を含め、「今後のJISCのあり方」について討議。引き続き、検討を継続。

## ■ 国際標準専門家の育成 (No.6)

✓ 「国際標準化人材育成支援等基盤体制強化事業」において国際会議に出席する国際標準専門家を育成するための事業を実施。また、産業界のニーズに応える幅広い人材育成を実施。

### ● 国際標準化活動に携わる人材のための研修事業

- 国際標準化入門研修  
国際標準化活動に初めて携わる人材を対象とした基礎的な知識を習得
- 国際標準作成研修  
ISO/IEC規格原案の作成方法を習得
- 国際標準化リーダーシップ研修  
国際会議において、全体管理・会議進行・意見採用に関する能力向上に資する知識を習得
- 国際標準化講師育成研修（トライアル研修）  
人材育成研修の講師として期待される人材を対象とした研修プログラムを開発し、トライアル研修を実施

### ● 高専・大学・大学院における標準化講座の開設支援

高専・大学・大学院において標準化関連講座の開設に向け、カリキュラム作り、講師紹介等の支援を実施。2010年度は、早稲田大学、北陸先端科学技術大学院大学など9校に対し実施予定

### ● 企業、団体等の要望に即した訪問研修

実務担当者が経営手法としての標準化の機能について理解を深め、活用していく能力を習得していくことを目的に、企業・団体の要望にできるだけ即した研修内容とした訪問研修を実施。2010年度は18社にて実施予定。

### ● 学協会、産業界等への普及・啓発

教育関係者や企業関係者における標準化教育への認識を高めるため、学協会が主催する年次大会等の場で講演。2010年度は日本工学教育協会等4団体にて実施予定。

### ● 標準化教育プログラムの作成

大学及び企業の教育現場において利用しやすい標準化教材及びプログラムを開発し、公表。

## ■ 産業界の意識改革の促進 (No.8)

- ✓ 産業界の理解促進、経営層のためのセミナー、意見交換の開催
  - 日本経団連 国際標準化戦略部会・知財企画部会等において意見交換を実施。
  - 特定の重要テーマについては、企業経営層を含む様々なレベルにおいて意見交換を実施。
  - 標準化大会を国内9箇所で開催し、戦略的な国際標準化を含む基準認証政策の重要性について説明。
  
- ✓ 平成22年度工業標準化事業表彰（内閣総理大臣表彰、経済産業大臣表彰及び産業技術環境局長表彰）を開催
  - 国際標準化活動に率先して取り組み、その功績が顕著な者等に対して、表彰するもの。本年度は、森 紘一氏（内閣総理大臣表彰）他、48名3団体を表彰。
  - また、同表彰とあわせて、IECの活動に大きく貢献したことにより受賞する「IEC1906賞」の表彰も実施。受賞者125名のうち、我が国専門家が20名含まれる。

## 「知的財産推進計画2010」の進捗状況⑤

### ■ 知的財産マネジメントの実践 (No.9)

- ✓ 知財と標準化に関する各種の取り組みを実施
  - 「イノベーション・ジャパン2010」のイベントの一つとして、「技術を価値につなげる知的戦略」と題する講演会の実施や、日本弁理士会において講演を実施。
  - 標準化と知財を一体的に推進するため、有識者との意見交換及び海外調査を実施中。年度内に、「知財ワーキンググループ」（仮称）の立ち上げる予定。

### ■ 公正な評価方法の研究・国際標準化の支援 (No.10)

- ✓ 「アジア太平洋産業技術・国際標準化協力プログラム」の実施により我が国の試験方法、制度を海外に展開。
- ✓ 公正な評価方法の研究及びその国際標準化の支援を実施中。認証機関も参加。
  - 付加価値の差別化（例 LEDの配光測定方法の国際標準化）
  - 安全安心やリスク低減のための品質保証（例 生活支援ロボットの対人安全性評価）



# (参考) アジア基準認証推進事業 (事業概要)

## 目的

- グリーン・イノベーション分野、ライフ・イノベーション分野において、国際標準化、認証能力の向上等に向けた国際共同実証を実施することにより、アジア諸国と一体となった成長を実現。

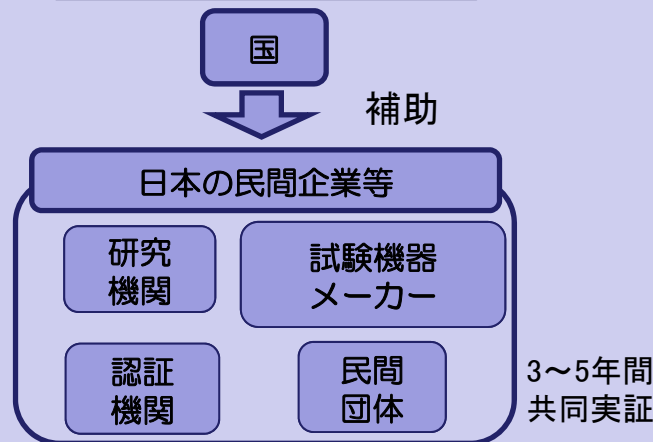
## 事業概要

- ①太陽電池など、日本製品の強みが適正に評価される性能評価方法等を共同開発。
- ②開発した性能評価方法等をアジア諸国と連携しつつ国際標準として提案。
- ③製品性能を「見える化」するため、アジア諸国の試験機関の認証能力向上をソフト面も含め支援。

## 期待される効果

- アジア諸国の試験機関の認証能力向上させ、優れた性能を持つ日本製品が適正に評価され、粗悪品が排除されることが期待。
- 結果として、アジア諸国の直面する課題解決に貢献するとともに日本企業のアジア市場拡大にも寄与。

## スキーム図



※実施主体には、海外企業、日系企業現地法人も含む。

## 相手国

- ・シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア他

## 協力テーマ

- ・太陽光発電の耐久性加速試験
- ・冷蔵庫等の消費電力量評価
- ・バイオマテリアルの性能評価
- ・人工関節の性能評価 他

## 事業内容

- ・共同試験・研究
- ・専門家派遣、研修受入
- ・会議開催
- ・設備導入

※各国からの要望を踏まえた事業を選定する。